

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

清規と陋規を考える 牛尾治朗（ウシオ電機会長）

1. 社会には、清規と陋規というのがあります。清規は表向きの道徳を指します。人のものを盗んではいけません。喧嘩をしてはいけません。親孝行をしましょうという訓戒はいずれも清規に属します。「教育勅語」などその典型と言えましょう。これと一対を成す陋規は、裏の道徳とも言えるものです。例えば、喧嘩もただ無軌道にやるのではなく、素手で行う、一対一で行う、自分より強い者で行うなど、一定のルールに則ってやる。
2. 清規が大切であることは言うまでもありませんが、社会というものは、そうした建前や綺麗事ばかりで成り立つものではありません。陋規の裏打ちがあることによって秩序が保たれ、温かみや潤いももたれる面もあることは、否定できない現実なのです。ビジネスの世界でも、よい会社にはよい陋規が残っています。業績が傾いても経費の無駄を徹底的に排除し、社員の雇用はできるだけ守っていくなど、独特の伝統が長らく日本企業の強さの源泉になっていました。
3. 近年は、こうした日本独特の伝統が改革の妨げになると考えられ、どんどん失われていますが、それに伴い、日本の強さまで損なわれていくことを私は危惧しています。安岡正篤先生は、清規という上層建築は修繕可能だが、陋規という土台が崩れてしまっただけではもうどうにもならないと警鐘を鳴らしています。綺麗事ばかりがまかり通り、それを補完する陋規というものが忘れ去られてしまうことは危険なことなのです。
(参考:「致知」2016年3月号)

経営者のための営業学

ホーム・サポートシステム（平和堂）

1. 国宝・彦根城近くに本社を構える平和堂。全約 150 店のうち半分が滋賀県というドミナント戦略を推進してきた。県内スーパーにおけるシェアは 4 割近い。滋賀県内の在住者には自宅から車で 30 分圏内に平和堂の店舗が 10 店程度あるイメージだ。自社競合によるデメリットよりはメリットのほうが大きいようだ。店舗密度を高めることで、新店ができてもしランの配布数を増やす必要がないほか、新鮮な商品を各店に素早く配送しやすくなる。
4. 4年前に「ホーム・サポートサービス」を始めた。お年寄りを中心としたいいわゆる買い物難民のため、インターネットではなく電話やFAXで注文を受け、商品を自宅まで届けている。日常生活の困りごとにもサポートする。利用者の家の中まで入るため、店舗で長く働き信頼関係があるOB・OGに手伝ってもらっていることが特徴だ。年会費は 1000 円で 1 回の配送料は 108 円ほど。現在は 22 店まで拡大し、損益もトントンになった。

(参考:「週刊東洋経済」:2016年1月23日号)

ワンポイント経営アドバイス

幅広いパートナーと組む

中西宏明（日立製作所会長兼CEO）

1. すべてのものがインターネットにつながっていくトレンドは止めようがありません。I o T (モノのインターネット) が社会の基盤を成すようになることは間違いない。この流れの中で、企業はいかに社会をより良くしながら発展できる道を探っていくかが重要です。
2. 日立は企業理念や事業の方向性を示すキーワードとして「社会イノベーション」を掲げています。2016 年はこれまで世界各地で社会イノベーション事業に取り組む中で明確になった課題を受け止めた組織づくりを進めていくつもりです。社会イノベーション事業の場合、そもそも顧客が誰なのか明確でないケースもあります。政府関係者と話を進めていたら実は民間企業が直接的な顧客だったということも少なくない。適切なソリューションを提供し、より良い社会をつくるには幅広いパートナーと組み、信頼関係をつくり問題を共有する必要があります。

(参考:「日経ビジネス」2016年1月18日号)

古典に学ぶ

ギリシャ人とローマ人

(解説) モムゼン (1817~1903、ドイツの古代史家) は、ギリシャ人とローマ人を比較して言う。ギリシャ人が祈るときは目を天にあげる。それはその祈りは観照だからである。それに対し、ローマ人はその頭にヴェールをかける。というのはその祈りは反省だからである。本質上ローマ人の宗教観と同じく、私たちの反省で目立つのは、個人の道徳意識よりは、むしろその国民的意識であった。

(参考:佐藤全弘訳新渡戸稲造著「武士道」:教文館)